

日本赤十字社医療センターで

呼吸器内科のスペシャリストに！



日本赤十字社医療センター呼吸器内科指導医

出雲雄大（部長），猪俣稔（副部長），久世眞之，栗野暢康，守屋敦子

日本赤十字社医療センター呼吸器内科での研修（呼吸器内科専攻医・後期研修医）の特徴

- ・ 都心の基幹総合病院での豊富な臨床経験
- ・ 学術活動の推進
- ・ 呼吸器重点研修による呼吸器専門医取得への近道

都心の基幹総合病院での豊富な臨床経験

2017 年の実績

気管支鏡（EBUS-GS, EBUS-TBNA,
クライオバイオプシー含む）：312 件
局所麻酔下胸腔鏡：5 件，全身麻酔下処置：21 件
気管ステント・EWS：7 件
新規紹介患者数：822 人
間質性肺炎に対する抗線維化薬の導入，難治性喘息の抗体療法導入
その他，PET-CT，CT ガイド下経皮肺生検，胸腔鏡下手術，
放射線治療（サイバーナイフ，リニアック），緩和ケア，
がんセンターボード，なども充実

呼吸器内科専攻医・後期研修医の実際の臨床経験

気管支鏡：検査者として約 100 件/年
気管ステント，EWS，サーモプラスチックなども経験可能
入院受け持ち患者数：250～300 例/年
外来：1 コマ～2 コマ/週（専攻医 2 年次以降より），
外来担当のべ患者数：1200～1600 例/年
肺癌化学療法（外来・入院），気管支喘息治療，
肺炎治療，非結核性抗酸菌症の管理，ICU 管理，
結核の診断・外来治療など，
多くの呼吸器内科の疾患・検査・治療が経験できます

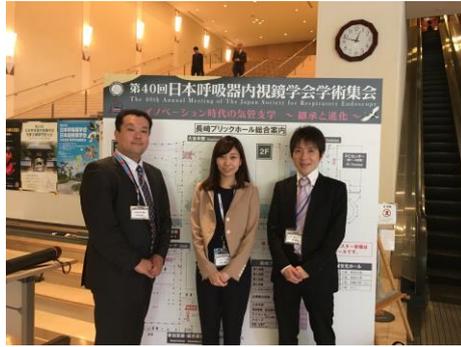
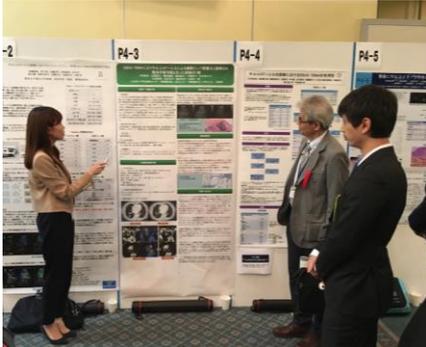


手術室でのサーモプラスチック，透視室での EBUS-GS，間質性肺炎に対するクライオバイオプシー，ICU などでの気管支鏡治療

学術活動の推進

呼吸器学会, 呼吸器内視鏡学会, 肺癌学会, アレルギー学会や American Thoracic Society

(ATS), European Respiratory Society (ERS)をはじめとした国内外の学会発表のチャンス



呼吸器重点研修による呼吸器専門医取得への近道

呼吸器重点研修タイプ (2年型) を採用

3年間の内科専門研修の内の2年間は当院呼吸器内科での研修+1年間は連携施設での内科研修
従来の後期研修 (2017年度以前) と同じ研修期間で呼吸器専門医試験受験資格が得られます

内科専攻医からの呼吸器専門研修の概念図



入院診療 (受け持ち) : 10 名前後

指導医—専攻医 (後期研修医) —初期研修医の屋根瓦式チームで診療し,
毎週のカンファレンスで治療方針を検討します

呼吸器内科全体の入院患者数は平均 30~40 名前後です

週間予定の一例

	月	火	水	木	金
午前	内科カンファレンス 病棟研修	病理カンファレンス 気管支鏡検査 (緊急) 病棟研修	リサーチカンファレンス 病棟研修	気管支鏡検査 (透視室) 手術室処置	部長回診 気管支鏡検査 (緊急) 病棟研修
午後	病棟研修 新患入院カンファレンス 気管支鏡カンファレンス	病棟研修 がんサーボード	気管支鏡検査 (透視室)	多職種合同カンファレンス 全入院カンファレンス	外来研修

連携施設

三井記念病院, JR 東京総合病院, 東京通信病院, 大森赤十字病院, 浦河赤十字病院, 東京大学医科学研究所附属病院,
がん研有明病院, 関東中央病院など

処遇等

- 給与: 日本赤十字社医療センター雇用契約に基づき支給 約700万円~900万円/年 ※時間外、賞与等を含む
- 保険: 社会保険 (厚生年金・健康保険・雇用保険・労災保険) に加入 (3) 有給休暇: 有 (労基法に基づく)
- 宿舎: 無 (但し住宅手当 (諸条件有、上限 28,500 円/月まで) および通勤手当の支給)

研修に関する問い合わせ先

日本赤十字社医療センター教育研修推進室 rinsyokensyu@med.jrc.or.jp または,

日本赤十字社医療センター呼吸器内科教育担当 (部長) 出雲 雄大 izumo_takehiro@med.jrc.or.jp